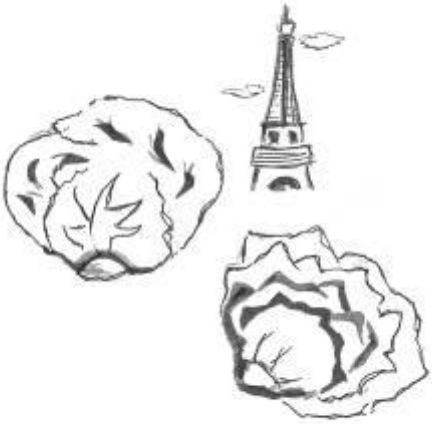
話(わ)じゃれ（26）

岐久　ようこ

パリッとした時計

スイス製「オメガ時計」
国内で３万円台で
手に入るとなると
売り出しの店には行列が
「予定を超えてる」
怖くなった店側は頭を下げて回り
「本日は中止します」
予定を消された未練
列車の運転手は
「１分の遅れを気にする毎日なのに」
時計店なら時間を正確に守れ！
ブランド時計なら尚更だ
八百屋でキャベツが
陳列棚で並ぶレタスに声かけた
レタスは「パリッとした歯応えは
やっぱりレタスよ」.

腕力気力　貯え列に　加わったのに
次回は　万障繰り合わせて　来ようか



左妻物語は歌に

江戸のなごりの浅草
我が子なのに
お母さんと呼べずに育つ
「下町の母」は
人の情けを
もらいつつ人知れず涙ぐむ
食べれなくても遊べる
亀井戸のあたり
「寄ってらっしゃいお兄さん」
もう男勝りのママがいるって
言われても育てねば
「左夫物語」の歌があれば
居酒屋、呑み屋などトカク狭い所へ
行きたがる癖の夫は
コロナ中家でゴロゴロ
こんなハズではと、つい
「動くこと無いならゴミ捨て
毎回お願いネ」
とつながって

見知らぬが　えしゃくする　ゴミ捨て場
お互い　妻が飼育中の　身なのかネ

注・左妻（ひだりつま）（左褄）とは、芸妓（げいぎ）の意

牧師に誓います

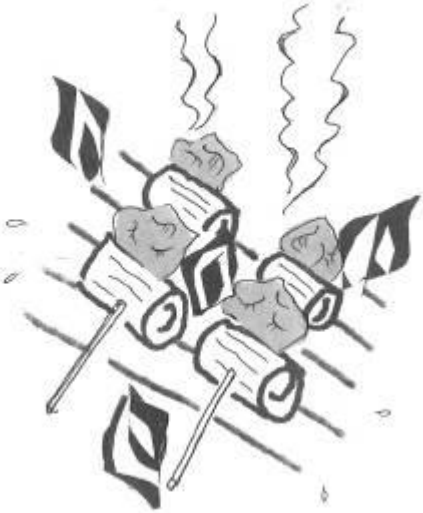
＝うぐいすの　逢ふて帰るや　冬の梅＝

――蕪村の句

「ホ、ホ、ホケキョッ」
解剖のメガネで解くと
一種の美文字のつづり
季節もめぐり４月
公園で八重の椿が咲き
「白いのはボテボテ」
花のフチがすぐに茶になって
「椿は赤」が似合う
歌手なら丘みどりさん
紅白に初出場を控えて出た文書
「結婚されていた」
「何ナニ！」
解剖メガネで見られだすと
美女はさらに羽ばたく
「遅咲き結婚するわよ」
教会へ手をたずさえて

末永くと　誓われましたか　今回も
まあね　子もさずかり　ほのぼのと

じっくり炭火で火を通す

焼鳥、うなぎ、炉端
その熱源の炭は中国産でしたが
「環境ＳＯＳ」を発してストップ
そこでラオスからの輸入へ
東南アジアにはビールビンほどの
炭の材料となる木
５、６年もすれば切り株から
再生して環境破壊なし
ラオスの都市で半分、地方で８割
シチリンのある暮らし
日本では少なくなったけど
どんがら汁すすって
♪　繁盛やおまへんか
懐かしい
ロシアが隣国へ挑んで以後
ロシアからの「エネルギー供給」受けるな
協調したいけれど、不足しては自国が困る
熱源は大昔から山にある

オレの影　だんだん薄く　なったが
炭の心臓　アッチチ働き　続ける